

漢数字表記について〔縦書論文の場合〕

縦書き本文中において使用する数字は、漢数字を使うことを原則とする。漢数字の表記法は、標準的な左記の表記法を参照することとするが、ただし、執筆者が個々に「十方式（十、百、千を入れて表記する方式）」、あるいは、「二方式（漢数字を並べて表記する方式）」のいずれかの表記法を採用すること、またいずれかの表記法による統一を行うことを妨げるものではない。また、引用文中もこの限りではない。

一、単位語は、万、億、兆を入れる。 例 六億五七八三万七六九一人

二、概数などを表す千万、百万、千、百などの位で終わっている数字は、単位語を使用する。 例 約八千万人 八百万人 八千人

三、三桁、四桁の数字で、ゼロ以外の数字を二つ以上含むときは、単位語を入れない。

例 一九四五年 二五〇〇枚 六五三件

四、二桁の数字には、十を入れる。 例 十三世紀 二十世紀 六十五万票

五、小数点の表記については、中黒「・」を用いる。

六、熟語、慣用の決まった語は、そのまま使用する。

例 五十歩百歩 千夜一夜物語 五・一五事件

（以上は、日本エディタースクール編『標準編集必携』の漢数字表記法による。）

*縦書き図表中、および、本文中などで数値を列举して比較対照を行う場合、「二方式」による表記の統一を可とする。

例 A市六五万人、B市三〇〇万人。 C村、一〇五六八戸、D村、二八三七戸。

*図表などの横書き文中、並びに、本文中において直接、欧文文献の参照指示を行う場合は、アラビア数字を用いる。

例 (Marx, 1894, S.828.)

*見出し語は、漢数字を使用する。 例 一節 二節